

■e-黒板ニュース（第29号）：教員向けデモの体験レポート

今日は、東京都武蔵野市の成蹊中学校に行きました。第21号でレポートした柵野先生のいらっしゃる学校です。まだ、電子情報ボードを体験されていない先生方に向けて、デモとちょっとした研修を実施するというのを聞きつけて、飛び入り参加させていただきました。

第27号でご紹介したように、Promethean Technologies Group Limited CEOのStephen Jury氏が、電子情報ボードの普及のためには、ボードメーカーのデモと導入後の研修が重要だとおっしゃっていたからです。さて、どんなデモとなったのでしょうか。その成果は？そして、見えてきた課題とは？

今号の目次：

=====

1. 報告：教員向けデモの体験レポート（東京都武蔵野市の成蹊中・高等学校）

=====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿お待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 報告：教員向けデモの体験レポート（東京都武蔵野市の成蹊中・高等学校）

成蹊中・高等学校の柵野孝先生にメールでお知らせいただいたので、電子情報ボードメーカーの先生向けデモにやってきた。対象の電子情報ボードはフロント型。

生徒たちが下校した後の15:30から16:15までということで、視聴覚教室に10人の先生方が集まってくれた。講師役は、私と、ハードメーカーのH氏と、IT教材標準化委員会の代表でe-教科書研究会の委員でもある原さんの3人。

機器の設定等に10分くらいかかったので、実質のスタートは15:40から。正味は、たったの35分間だった。

○3人がそれぞれの視点で説明

トップバッターは私で、約10分間、昨年度の成果である「電子情報ボードを活用した実践事例集」CD-ROMの静止画やビデオクリップを、電子情報ボードを使って見てもらった。

そして、用意していたパワーポイントの資料で、電子情報ボードの普及の状況、基本的な機能と有効な活用場面、活用のメリットの部分を選り抜いて駆け足で説明した。

次に、ハードメーカーのH氏。15分間で、自社の製品の特徴的な機能を中心に説明した。手馴れた調子で、時には先生方の質問に答えながらデモをしていく。一番高度な機能である「部品を動かせる機能（オブジェクト）」を熱心に説明していた。

私が感じたのは、初めて電子情報ボードを見る先生方には、ちょっと難しいのではないかとということである。確かに「部品を動かす・拡大縮小する・回転させる」を見せると、一瞬、「受ける」。しかし、これは基礎編ではなく、応用編だと私は思う。

最後に、e-教科書の説明を原さんをお願いした。8分しか時間がなかった。せっかくなら来ていただいたのに申し訳なかった。

教科書ビューアの説明では、電子情報ボードのハードウェアの機能と同じ、線を描いたり、部品を動かしたりしたので、先生方はそれはソフトウェアの機能との区別がつかなくて、頭が混乱したのではないかと心配である。

○私の当初の計画

デモを開始する前の私の計画は、以下のようなものだった。

- (1) 電子情報ボードの活用イメージを授業の様子のビデオクリップで伝える
- (2) 電子情報ボードの普及の状況、基本的な機能と有効な活用場面、活用のメリットを整理して伝える
- (3) 電子情報ボードを活用した先生の「生の声」で、授業や子どもたちがどう変わるかを示し、先生方に「私も使ってみよう」と思わせる

具体的には、

(1) では、昨年度の成果である「電子情報ボードを活用した実践事例集」CD-ROM

<http://www.cec.or.jp/Ekokuban2004/index.html>

に収録されている中から、電子情報ボードを活用した「わかる授業」

岡山県の取組み：「みて！みて！IT」

<http://www.cec.or.jp/Ekokuban2004/mitemiteIT/index.htm>

の静止画やビデオクリップを、電子情報ボードを使って見よう。

事例は、先生方の専門教科や関心に近いものを選ぶようにする。

(2)では、伝えたいことがたくさんあったので、資料を配布し、あとから参照できるようにして、ポイントだけを電子情報ボードを使って、マークをしたり下線ひいたりして強調する。

強調したいポイントは、

- ・日本ではまだまだ導入例・活用例が少ないが、海外（特に英国）では政府も多額の予算を付けるなど、その導入に熱心であり、その背景には活用の効果が調査によって実証されている
- ・電子情報ボードの基本機能として、「写せる」「書き込める」「コンピュータを操作できる」「保存し、再利用できる」があり、これらを授業の場面ごとに活用することで、「わかる授業」「子どもたちが目を輝かせる授業」ができること
- ・平成15年度のe-黒板研究会の調査結果から、電子情報ボードの活用場面と教育的効果の事例を示すとともに、過去の成果として一般的に言われている「電子情報ボードの有効性」「メリット」について、情報を整理して、伝えるということである。

(3)では、第25号に掲載させていただいた北海道石狩市立生振小学校の山本和彦先生の体験レポート「初めての電子情報ボードの授業」を抜粋し、紹介する。先生方に、「私も、こんな授業をしてみたい!」と感じていただくことが狙いである。

○結果は?

時間が短いところにもってきて、3人がバラバラな視点で説明したので、はじめて電子情報ボードを見た先生方にとっては、消化不良に終わってしまったのではないだろうか。

第27号でご紹介したように、Promethean Technologies Group Limited CEOのStephen Jury氏がポイントとして挙げられたのは次の3点であった。

- ・学校向けの魅力的なデモを普及のためには有効な利用法を提示すること。そのためには、ボードメーカーのデモが重要である。教員が電子情報ボードの有効性を体験を通じて、認識することが重要である。
- ・電子情報ボード常設の教室をどこでも使えるように可動式とするよりも、すぐに利用できる教室を数教室でも用意しておく方が効果的である。また、影になる部分が少なくなることも、プロジェクタを天吊りとすること。
- ・導入後の研修が重要
教員の自信と継続して使う力を支援する、そのためには、導入後の研修が重要。
研修においては、
 - 最初は欲張らずに、簡単な操作のみ教え、まず教員に自信を持たせる
 - 利用開始後、定期的(1ヶ月～数ヶ月毎)に、より高度な内容について研修を行う

「最初は欲張らずに、簡単な操作のみ教え、まず教員に自信を持たせる」というアドバイスが活かせなかったと思う。どうしても、たくさんのことを説明しようとしてしまうからである。

予定の時間が過ぎてからも、3人の高等学校の英語の先生は30分ほど残ってくれて、質問をしたり、実際に操作をしてくれた。一人の先生は、普段実際に授業で使っている「単語カード」を、いくつか組み合わせながら授業を進めていくというやり方を、電子情報ボードの部品の機能(オブジェクト)を使ってできないかという質問をされた。H氏が、それを実現する方法をその場でやって見せたので、納得してもらえたようだった。きっと、「これは、使えそうだ!」と感じられたに違いない。
このように、先生がやりたい方法を実際にやって見せることは効果的である。

○今後の課題

「有効な利用法を提示する」ということは、説明する側で、いろいろな校種・学年・教科に応じた事例をいっぱい持って、相手に合わせた具体例を示す必要があることを痛感した。

高等学校の数学の先生に、小学校の算数を見せてもダメだし、中学校の英語の先生に小学校のデジタル教科書のデモをしても、直接的な共感を得ることは難しい。

いろいろな教科、いろいろな場面に応じた活用方法を集めて、デモができる準備をしておく必要があることがわかった。年度末には、ある程度体系的に事例を収集し、整理できるのではないかと思う。

ご期待ください。そして、皆様もぜひ、ご協力をお願いします。

【訂正】

第27号で、「Ray Baker氏&Stephen Jury氏への独占インタビュー」としましたが、「Ray Baker氏」は「Ray Barker氏」の間違いでした。本文中も全て間違っ記述してしまいました。お詫びして、訂正させていただきます。ニュースを引用される場合はご注意ください。

なお、ホームページに掲載しているバックナンバー

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/eknews/eknews027.txt>

は、訂正しました。

eknews029.txt

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====